

批判的思考力とその態度を基盤とした キャリア教育の実践

原 田 治 幸

Career education practice based on
critical thinking skills and attitudes

by
Harada Haruyuki

要旨

本稿は、ジェネリックスキルの1つとされている批判的思考（クリティカル・シンキング）についての鈴木健氏と楠見孝氏の定義等に従って、筆者が実践したキャリア教育の授業において学生による批判的思考力とその態度について整理し、その効果と課題について論じたものである。「新聞記事を読んだ感想・意見」では、6つの新聞記事を題材に「共感的感想」、「批判的感想」、「自分ならどうする」の3つの視点から記述させ、学生による自己評価結果から批判的思考力とその態度に基づいた効果を推測することはできたが、授業前後に対比して効果を測定することはできていない。ディベート⁽¹⁾では、8つの論題についてのディベートの試合、学生によるアンケート結果、ステージⅠ・Ⅱにおける学生による自己評価から、批判的思考力とその態度は、総合的に重要な能力としてディベートを行うための基盤となっている。また、学修成果把握アンケートの結果から、ディベートを行うことにより批判的思考力とその態度の育成にある程度効果があったと考えられる。ただし、論題設定や効果測定結果を踏まえた更なる実施方法の工夫が必要である。就職試験では専門知識だけでなくジェネリックスキルが求められ、その1つである批判的思考力とその態度を育成することは有用であり、それを基盤としたキャリア教育を実践することは有意義である。なお、「批判的思考」と「クリティカル・シンキング」は同義として扱い、本文では引用等の際は批判的思考を用いるが、両氏の著書の原文に用いられた用語を使用した。

キーワード：ジェネリックスキル、批判的思考（クリティカル・シンキング）、新聞記事、ディベート、キャリア教育

1 批判的思考（クリティカル・シンキング）とは

「批判」を辞書で調べてみると、「物事の真偽や善悪を批評し判定すること。人物・行為・判断・学説・作品などの価値・能力・正当性・妥当性などを評価すること。否定的内容のものをいう場合が多い。」などとあるように、批判的思考には否定的なイメージがあることから、批判的思考（クリティカル・シンキング）についての最近の動向と鈴木健氏、楠見孝氏による定義等について触れておく。

1998年10月に採択された「ユネスコ高等教育世界宣言」の中では、「高等教育機関は学生を、批判的に思考し、社会の問題を分析してその解決策を求め、それを実践して社会的責任を受け入れることができる見聞の広い、深く動機付けられた市民となるように教育すべきである。」と述べられている。また、2018年11月の中央教育審議会大学分科会による「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、今後の社会を支える人材には、学士課程を通じて身に付けることが求められている普遍的なスキル・リテラシーの1つとして、論理性や批判的思考力、コミュニケーション能力などがあげられている。このように情報化、複雑化、多様化が進み、課題解決能力が求められる社会を生きる学生にとって、批判的思考はジェネリックスキルの1つとして位置づけられている。

クリティカル・シンキングには様々な定義がある。鈴木健氏によれば、「他人の意見を批判的に見る否定的な考え方」ではなく、「与えられた知識や情報を鵜呑みにせず、複数の視点から注意深く、論理的に分析する能力や態度」と一般に定義され、現実の問題解決に使えるモデルとして表1の①から⑤が示された。なお、記号①から⑤は筆者が便宜上付記したものである。

表1 鈴木健氏による現実の問題解決に使えるモデル

記号	現実の問題解決に使えるモデル	
①	査定	何が問題なのか、何がなされるべきかを決定する。
②	診断	問題解決のプロセスに必要なデータを収集する。
③	計画	何がなされるべきかを熟考する。例えばブレインストーミングを用いて実行可能な解決案をリストアップし、それぞれを吟味する。
④	施行	プランを実行に移す。
⑤	評価	目標が達成されたかどうかの決定を下し、もし結果が納得のいくものでなければ、プランを修正する。

また、授業における個人やグループによるクリティカル・シンキングのトレーニングであれば③の計画までで十分であるが、その方法論を学習するだけでは十分でなく、「人の意見や知識を鵜呑みにせず自分の意見を主張する態度」の養成を目指すべきとされている⁽²⁾。

また、楠見孝氏は批判的思考について、表2のアからウにある大きく3つの観点から定義している⁽³⁾。なお、記号アからウは筆者が便宜上付記したものである。

表2 楠美孝氏による批判的思考についての3つの観点

記号	観点
ア	論理的・合理的思考であり、規準 (criteria) に従う思考
イ	自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的 (reflective) ・熟慮的思考
ウ	より良い思考をおこなうために、目標や文脈に応じて実行される目標志向的思考

さらに楠見孝氏は、批判的思考の態度について表3のAからFが階層的に構成されたものであり、その上にスキル・知識が重なり批判的思考があると構造的に示している⁽³⁾。なお、記号AからFは筆者が便宜上付記したものである。

表3 楠美孝氏による批判的思考の態度

記号	批判的思考の態度	
A	熟慮的態度	情報を鵜呑みにせず、じっくりと立ち止まって考える態度
B	探究心	熟慮的態度と結びつき、さまざまな情報や知識、選択肢を求めようとする主体的な態度
C	自分の知っていることが有限であるという自覚、異なる価値観や文化の存在を理解し、それらに関心をもつ「開かれた心」	
D	客観性	
E	証拠の重視	信頼できる情報源をもとに明確な情報や理由に基づいた判断をおこなおうとすること
F	論理的思考への自覚	論理的思考の重要性の認識と自覚的に活用する態度

1・1 キャリア教育における批判的思考の必要性

言うなれば、批判的思考力はコミュニケーション能力と同じように、教育活動だけでなく社会人として仕事を行う上でも大切なスキルと考えられ、キャリア教育においても批判的思考の必要性を意識的に学生に伝え、批判的思考力とその態度の向上を図ることが重要であると考えている。例えば、履歴書作成や面接試験で想定される発問に対する回答作成においても、自己の長所やPRだけでなく、短所を自覚しそれを補うための努力や取組を記述し、社会での出来事等に対する共感的感想、批判的感想の両面からの口述も求められる。こうした活動の基盤となるのは、自らを振り返る内省的・熟慮的思考などの批判的思考力であり、こうした履歴書作成や面接試験の準備を行うことは批判的思考力とその態度の向上にもつながるものと考えている。次に、筆者が実践した批判的思考力とその態度を基盤としたキャリア教育の取組を紹介し、取組ごとに効果・課題や意義について述べる。

2 キャリア総合Ⅱ、キャリアデザインⅡが目指すところ

令和3年度から3年間筆者が担当した本学保育学科2年生のキャリア教育科目であるキャリア総合Ⅱ、キャリアデザインⅡでは、自分の進路に関して必要とされる専門的な知識・スキルを身に付けることを目的に、社会の中の自己認識の可視化、社会に対する知識・理解の深化、

構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、思考力・判断力・表現力、他者と協働した作業効率の向上といった5つを目標としている。

学生に対しては、この目標について、初回の授業で図1の①ように、前期：キャリア総合Ⅱ、後期：キャリアデザインⅡが目指すところとして平易に示し、図1の②には、今後高めたい資質の1つとして「創造」「挑戦」を強調した。

図1 キャリア総合Ⅱ、キャリアデザインⅡの目標

この授業（前期：キャリア総合Ⅱ 後期：キャリアデザインⅡ）が目指すところ
① 目の前の目標「就職、卒業、資格取得」のサポート
・ 自分を知る ・ 社会を知る
・ 情報を整理しまとめる ・ 表現する（話し言葉、書き言葉）
② 就職後の社会で、一人前の社会人として生きるための手助け
・ みなさんがこれから暮らし働く次の時代は、ホントに予測できない
→ チャレンジ（挑戦）
新しいものをつくる（創造） このような力が求められる

・ 自分を知る

学生は、図2の自己紹介カードを事前記入し全体の前で一人ずつ発表する。次に筆者自身の人生の良い時、悪い時を折線で表した人生カーブ（自分カーブと呼称する。）を示し、各学生が自分カーブを作成してグループ内発表で共有、最後に仮想の人生カーブを作成・全体の前で発表する。

→ 社会の中の自己認識の可視化

・ 社会を知る

学生は授業の各場面で様々な社会に関する知識を獲得するが、それを多様な視点から整理し、グループで発表、議論することで確かな知識、認識となる。

→ 社会に対する知識・理解の深化

・ 情報を整理しまとめる

インターネット検索を通じて獲得した情報を、聴衆に発表するために整理しまとめる。

→ 思考力・判断力・表現力

他者と協働した作業効率の向上

図2 自己紹介カード

自己紹介カード	
保育学科 2年 学籍番号	名前
1	出身高等学校（入学前の仕事）は
2	最近ハマっていることは
3	自己プロフィール
4	将来の夢は
5	この授業に期待することは

- ・ 表現する（話し言葉、書き言葉）

自分自身や調べたことについて共有、発表、議論する場面において話し言葉や書き言葉で表現する活動であり、キャリア総合Ⅱにおける中核的な活動である。

→ 思考力・判断力・表現力

構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力

他者と協働した作業効率の向上

授業内容の概要としては、キャリア総合Ⅱでは、自己紹介、自分カーブ・仮想カーブ作成、スライド作成とグループ発表、新聞記事を読んだ感想・意見、ディベート、履歴書作成等を行い、キャリアデザインⅡでは、キャリア総合Ⅱで培った学びを基盤にして、面接試験に向けた準備、就職後の社会において必要となるテーマについて専門の講師による講話等を行った。

3 「新聞記事を読んだ感想・意見」による取組

授業の導入として、次の(1)から(3)を説明し、本取組の必要性とねらい、到達目標を示した。

(1) 例えば、面接試験において「待機児童が問題になっているが、このことについてどのように考えているか」など最近の出来事や関心を持ったことが発問の材料となった場合など、単にこんな事案があったという知識を述べるだけでなく、その事案についての感想や自分なりの意見を付け加えることが必要であることを伝え、そのためには事案についての共感的感想と批判的感想などの多様な視点からの感想や自分としての意見を口述できることが必要である。

(2) 今回の新聞記事について、共感的感想は書きやすいが、批判的感想や自分ならどのようにするかを書くのは容易ではない。「批判」とは、単に誤りや不足した部分を指摘し評価する否定的なものではなく、このようにしたら改善できるという前向きな助言も含んだ感想であると捉えて批判的感想を記述すること。欠点・過失などを責める「非難」とは全く異なるものである。

(3) 「自分ならどうする」について、共感的感想と批判的感想を踏まえて自分なりの意見を記述する。共感的感想だけでは自分なりの意見は記述しにくいいため、与えられた新聞記事の課題に気づき、それを改善するための方策を見出すことが、自分なりの意見を記述するためのスタートになる。自分なりの意見をしっかりと記述できることが目標である。

令和3年度から令和5年度までの間、年によって取り上げる題材は異なるが、表4に示す活動を行っている方々について1件あたり600字程度の新聞記事を読ませ、「共感的感想」、「批判的感想」、「自分ならどうする」の3つの観点から記述する取組を継続して行った。表4は、新聞記事の見出しの一部と記事の概要であり、個人名、団体名等は省略した。

表 4 新聞記事の題材

1	見出し	捨てられる野菜材料に 野菜で作ったクレヨンを販売する
	概要	農家の畑の片隅に捨てられた野菜を見て、野菜や果物を再利用して、子どもが誤って口に入れても安心で、ユニークな色の組み合わせが特徴の「おやさいクレヨン」を開発。「どうぶつうちねんど」という野菜でできた粘土も発売。
2	見出し	胎児の障害や病気知ったら、NPOが冊子
	概要	胎児に病気や障害の可能性を指摘された妊婦や家族の気持ちを落ち着かせ、正しい選択肢を知るためのポイントをまとめた冊子を注文配付。妊娠継続を考える人向けの「月編」、継続しない人向けの「星編」、父親用の「山編」、診断前の妊婦に向けた「たね編」などを作成。
3	見出し	役立ち元気になる ダウン症版の母子手帳を企画
	概要	自治体からもらった母子手帳はどれも当てはまらず成長記録をつけるのをやめた。役立つ情報が載り元気になれる手帳として「子育て手帳 +Happy しあわせのたね」を作成。成長記録はできるようになったことを年齢に関係なく記念日として記入。
4	見出し	事故で障害の「今の私見て」 下関の全盲女性、20日から初の詩作展
	概要	高校時代に車にはねられ重い障害が残った全盲の女性が詩作に情熱を傾け、初めての詩作展「茜空」を開く。明日への希望、夢、家族の愛、生きることの意味、様々な感情を言葉に紡ぐ。初の詩作展はハンディのある人にも楽しんでもらえるように工夫。
5	見出し	親や職員 頑張っている姿見て 映画「夜間もやっている保育園」
	概要	「夜間保育園の現場を撮ってほしい」と監督を説得して映画が完成。夜間保育が必要な人は増え差別や偏見もあるが、親の人生や思い、親子を見守る職員の姿に迫った作品。家庭と同じリズムで過ごせるよう心掛け、理念「質の良い保育を提供」を貫く。
6	見出し	「きれいごとで動く社会」に ハンディのある人を積極的に雇用する中古タイヤ店
	概要	障害者や外国人といったハンディを抱えて就職が困難な人々を積極的に雇用、従業員70人のうち7割。創業当時に比べ売り上げは約4倍に伸びた。「困っている人を助けたい」という思いを強め決意。就労ビザ取得の世話や技術の教え込みもする。

3・1 「批判的感想」、「自分ならどうする」の回答から見える批判的思考力とその態度

表4の各新聞記事に対する「批判的感想」、「自分ならどうする」の回答から見える、学生の批判的思考力やその態度について整理した。なお、各新聞記事に対する主な「批判的感想」、「自分ならどうする」は、資料1にまとめて掲載した。

(1) 新聞記事1について

保育学科の学生にとっては、廃棄野菜で作ったクレヨンについての本記事は、保育にも関連し、学生の興味・関心も高いが、こうしたクレヨンがあることをほとんどの学生が知らなかった。そのため、オリジナリティがある、安心なクレヨン、廃棄野菜の再利用など数多くの「共感的感想」が見られた。一方、「批判的感想」「自分ならどうする」には、普通のクレヨンの誤食、危険性伝達の必要性、他の材料への拡大などあり、本記事に掲載された取組の問題点や改善点が見られ、表1から表3にある記号①、ア、A、Cといった批判的思考力やその態度が一部の学生に見られたと考えている。

(2) 新聞記事2について

出生前診断は重いテーマであったが、この冊子が悩んでいる人にとっての参考となり精

神的支えにもなること、対象者別にも作られていることを高く評価する「共感的感想」が見られた。「批判的感想」には、注文販売でなくすぐ手に取れるところにあると良いなど前向きな感想があり、「自分ならどうする」には、障害の有無にかかわらず生みたいから、準備のために必要などの意見が見られ、表1から表3にある記号①、イ、ウ、Aといった批判的思考力やその態度が一部の学生に見られたと考えている。

(3) 新聞記事3について

発育の遅れに対する母親の苦悩に同情しながらも、サークルをつくり冊子作成に至る母親の行動力やできて当たり前ではなく記念日という新しい記入方法を称賛する「共感的感想」が見られた。一方で、今の母子手帳の記入方法を前向きに捉えて書き続けることや母子手帳と考案した子育て手帳との併用の勧め、さらにダウン症版の母子手帳は差別と言われる可能性を指摘する比較的多くの「批判的感想」があった。「自分ならどうする」には障害を受容し向き合って育てていこうとする意見が見られ、表1から表3にある記号①、ア、ウ、Aといった批判的思考力やその態度が比較的多くの学生に見られたと考えている。

(4) 新聞記事4について

当該者に対する多くの賛意が「共感的感想」として見られたが、記事の内容が詩作展の紹介等であったこともあり「批判的感想」「自分ならどうする」はほとんどなかった。表1から表3にある批判的思考力やその態度に該当するものは見られなかった。

(5) 新聞記事5について

夜間もやっている保育園は必要であるという「共感的感想」があるが、設備や清掃、職員の負担等を不安視する「批判的感想」が見られた。いずれの感想も少数である。「自分ならどうする」及び表1から表3にある批判的思考力やその態度に該当するものは見られなかった。

(6) 新聞記事6について

当該者はとてもやさしい人だとする「共感的感想」もあるが、社長としての対応を疑問視する「批判的感想」があった。「自分ならどうする」及び表1から表3にある批判的思考力やその態度に該当するものは見られなかった。

3・2 本取組による効果と課題

2021年度は新聞記事1、3、5、6、2022年度は新聞記事2、3、4、2023年度は新聞記事1、2を取り上げた。学生には授業後、振り返りシートを記入させたところ、学生による自己評価（取組姿勢、活動）の平均値は表5のような結果となった。評価基準は、取組姿勢が、5大変意欲的に取り組んだ、4意欲的に取り組んだ、3あまり意欲的ではなかった、2意欲的に取り

組めなかった、0欠席、活動が、5十分な知識や考え方を学ぶことができた活動であった、4ある程度の知識や考え方を学ぶことができた活動であった、3学ぶことの少ない活動であった、2ほとんど学ぶことのない活動であった、0欠席である。

表5 振り返りシートによる自己評価結果

2021年度		2022年度		2023年度	
取組姿勢	活動	取組姿勢	活動	取組姿勢	活動
未実施	未実施	4.6	4.7	4.1	4.4

2022年度、2023年度ともに、ある程度から十分な知識や考え方を学ぶことができたという結果であり、学生が意欲的に活動に取り組んだことがうかがえる。

また、振り返りシートにおける『『新聞記事を読んだ感想・意見』でどんな活動を行いましたか。また、どんな学び（成果）がありましたか。』という質問に対する主な回答として、「批判的な意見を出すことも大切だと分かった」「批判の聞こえは良くないが、異なる視点からの意見で多くの改善点が見つかることが分かった」「これまで批判することはあったが、批判する理由をしっかりと考えたことがなかったため書き出すことが難しかった」「良いと思ったことに対する批判的意見を書くことで、改善や更なる発展を考えることができた」「先の見通しを立てることで新しいものが生まれた」があった。

振り返りシートの結果から、本取組は新聞記事を読んだ「共感的感想」、「批判的感想」、「自分ならどうする」という感想・意見を記述するものであったが、社会に対する知識・理解の深化を図るという主目的に対して一定の成果があったことが認められる。

しかし、前節で記述したように、キャリア教育の目標の1つである「社会に対する知識・理解の深化」に必要な批判的思考力やその態度に基づいた効果を推測することはできるが、授業前後に対比して効果を測定することはできていない。

これまでの3年間で指導方法や教材についても年々改善を行ってきたが、前節で述べたように新聞記事4、5、6については批判的思考力やその態度に該当するものは見られず単純な感想文となっていた。今後とも、より多くの学生が批判的思考力やその態度を発揮することができる適切な素材の収集、精選、指導方法の改善が必要である。

4 ディベートを通じた取組

昨年度キャリア総合Ⅱの授業において実施した方法⁽¹⁾を継承して、社会に対する知識・理解の深化、構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、思考力・判断力・表現力、他者と協働した作業効率の向上を目的に、本年度もディベートを行い、2回の試合を行った。以下のとおり、本年度は1回目のディベートの試合であるステージⅠ⁽¹⁾において論題1

から論題4、2回目のディベートの試合であるステージⅡ⁽¹⁾においてはステージⅠと異なる保育現場等に即した論題5から論題8とした。

論題1 地震の多い日本であるが、原子力発電は必要である。

論題2 コロナでテレワークやリモートワークが広がったが、今後も増やすべきである。

論題3 スーパーやコンビニにおいて、有料レジ袋は継続すべきである。

論題4 「ブラック校則」が問題になっているが、日本の高等学校には制服が必要である。

論題5 子どもの発育・発達を促進するために、屋外遊具の種類や数を増やすべきである。

論題6 保育園・幼稚園などにおけるマスク着用も、保護者（子ども）の判断に任せるべきである。

論題7 保育園・幼稚園などでは、園児の使用済み紙おむつは保護者が持ち帰るべきである。

論題8 男女平等を実現するためにも、家庭での男女の育児分担は同じにするべきである。

論題の変更は、総合順位⁽¹⁾が高い方が、ステージⅠからステージⅡにかけて自己評価が向上すると必ずしも言えないこと、更なるディベートへの意欲喚起に必ずしもつながらないこと⁽¹⁾を踏まえた授業改善の1つであるが、本稿では触れないこととする。

4・1 ディベートにおける批判的思考力とその態度

ディベートの試合における批判的思考力とその態度について論題ごとに整理した。論題やグループによる違いが顕著となった。なお、本年度のディベートの試合における立論、質疑・応答、反駁、まとめの概要について資料2に掲載した。

(1) 論題1について

肯定側、否定側ともに問題点を整理した上で、エネルギー、環境、コスト、海外の取組などを情報収集した上で立論を構成し、相手側の弱点を突く質問と反論の応酬がなされた。プラン等として、肯定側は政府方針を背景に論題を推進する方が有益であることを示し、否定側は論題に代わるプランを提示している。表1から表3にある記号①、②、③、ア、ウ、A、B、D、Fの批判的思考力やその態度が両側の学生に見られたと考えている。

(2) 論題2について

肯定側は論題を採用することで得られるメリットについて、費用、人材確保、意欲向上、導入事例などの多様な観点から主張、否定側はそもそもすべての企業や事業所で導入できないこと、情報セキュリティなどのデメリットを立論で強調した。質疑においても自分達の立場を踏まえた堅実な質疑応答がなされた。表1から表3にある記号①、②、ア、

ウ、A、B、D、E、Fの批判的思考力やその態度が両側の学生に見られたと考えている。

(3) 論題3について

肯定側は環境問題、ごみ削減、政策の3つの観点から主張し、否定側はレジ袋の有料化を継続することの有効なデメリットも代案も提示できなかった。肯定側は相手のデメリットを的確に突く質問がなく、否定側からはそもそもレジ袋有料化だけで環境問題に効果的なのかという質問などがなされた。全体的にあまり噛み合わない低調なディベートの試合であったが、表1から表3にある記号①、②、ア、ウ、Aの批判的思考力やその態度が部分的に見られたと考えている。

(4) 論題4について

肯定側は立論においてアンケート結果に基づいて主張し、否定側は経費、清潔、個性などからデメリットと代案となる私服のメリットを強調した。事前の情報収集と相手意見の想定が十分でなく、質疑はいじめ、経費など単調な議論であった。表1から表3にある記号①、②、ア、ウ、Aの批判的思考力やその態度が部分的に見られたと考えている。

(5) 論題5について

肯定側、否定側ともに事前の情報収集、相手の意見の想定も不十分なため、立論に深まりがなく、質疑応答も自分たちの既存の知識の範囲に終始した。表1にある記号①に対する姿勢は見られた。両側の学生に情報収集に対する意欲低下が見られた。

(6) 論題6について

肯定側、否定側ともに事前の情報収集、相手の意見の想定も不十分なため、立論に深まりがなく、論題5よりは活発な議論となったが、自分たちの既存の知識の範囲での質疑応答に終始した。表1にある記号①に対する姿勢は見られた。両側の学生に情報収集に対する意欲低下が見られた。

(7) 論題7について

肯定側は経費、子どもの体調把握、園の業務負担の観点から論題を推進することを主張したが、否定側から厚労省の通知に基づくデメリットとして衛生上の問題、感染症対策、保護者優先、コストなどについて強力な主張がなされた。肯定側も園で処分することについての質疑がなされたが、否定側が適切に回答した。表1から表3にある記号①、②、ア、ウ、A、B、D、E、Fの批判的思考力やその態度が肯定側の学生を中心に見られたと考えている。

(8) 論題8について

肯定側は男女平等が社会全体で推奨されていることを背景に男女の育児分担を同じにすべきと主張し、否定側は男女平等の推進を認めながらも現状での改善の困難さを示し、男女が話し合いで決めるべきだとの代案を提示した。質疑も管理職の割合、国内外での違い

を含めて活発な議論がなされた。表1から表3にある記号①、②、③、ア、ウ、A、B、D、Fの批判的思考力やその態度が両側の学生に見られたと考えている。

4・2 本取組による効果と課題

表6は、学生33人に対してステージⅡ終了後に、今回のディベートについて実施したアンケート結果であり、5：大いに思う 4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまり思わない 1：まったく思わない を評価基準として行った。

表6 学生へのアンケート (2023.7.26 実施)

項 目		評 価						5,4の割合
		5	4	3	2	1	平均	
ア	知識や理解を深めることに役立つ	15	13	4	1	0	4.3	84.8%
イ	論理的思考力が高まる	14	12	5	2	0	4.1	78.8%
ウ	話題を取捨選択する判断力が身につく	12	15	4	2	0	4.1	81.8%
エ	状況に応じて適切に話す表現力が高まる	12	14	5	2	0	4.1	78.8%
オ	口述筆記や記録の力が身につく	13	13	5	2	0	4.1	78.8%
カ	探求心を養うことに効果がある	10	13	8	2	0	3.9	69.7%
キ	機会があればまたやってみたい	9	8	9	5	2	3.5	51.5%
ク	楽しかった	11	11	7	2	2	3.8	66.7%

表6の項目ア、イ、ウ、エはキャリア総合Ⅱの目標のうち社会に対する知識・理解の深化、構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、思考力・判断力・表現力の向上にどの程度資することができたかを表していると考えているが、80%前後の学生がディベートによる効果を認識しており、2、1と評価した学生も僅かである。また、ステージⅡ終了後に実施したアンケートにおける学生の主な感想を資料3に掲載した。資料3にあるように「グループ活動で一人じゃ気づけないことを発見でき、とても盛り上がった」「グループでチームとして意見をまとめ堂々と発表できた」「グループでよく調べたので反論に対応できた」とある一方、「発言する人としらない人で分かれてしまい、グループでのディベートが成り立たなかった」とあるように、グループにより差異はあるが、学生はディベートにおいても他者と協力した作業効率の向上が必要であることを認識・体感したと考えている。

表7は、本年度ステージⅠ・Ⅱの両方に参加した学生31人について、5：大いに思う 4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまり思わない 1：まったく思わない を評価基準として、ステージⅠ、ステージⅡ終了後に、それぞれ自己評価を実施した結果である。「Ⅰ」はステージⅠの自己評価の平均値、「Ⅱ」はステージⅡにおける自己評価の平均値、「批判的思考」は、各質問項目を行うために必要と思われる批判的思考力とその態度であり、表1から表3にある記号で示した。

表7 ステージⅠ・Ⅱにおける学生による自己評価と批判的思考

(2023.7.12 ステージⅠの自己評価 2023.7.26 ステージⅡの自己評価)

作業シートの作成についての質問	I	Ⅱ	批判的思考
1 自分たちの意見を十分書き出した	4.03	3.74	① アイ A
2 意見の根拠（証拠）をそろえた	4.00	3.68	② ア A D E
3 想定される相手の意見を十分書き出した	3.55	3.45	①② アウ B C
4 相手の意見の問題点、疑問点をあぶり出した	3.48	3.65	①② アウ B
ディベートの試合についての質問	I	Ⅱ	批判的思考
5 筋道立てた説明ができたか	3.97	3.84	F
6 理由や根拠（証拠）を示すことができた	3.87	3.77	E
7 相手の論に対して適切な質問ができた	3.39	3.48	A B
8 相手の質問に対して有効な反論ができた	3.48	3.52	A B
9 自分たちの論の正当性をアピールできた	3.68	3.77	③
10 相手の意見を記録した	3.23	3.48	D F

表7では、各質問項目と表1から表3にある批判的思考力とその態度が複雑に対応しているため、その対応関係を数値化して示すことは困難である。しかし、批判的思考力とその態度は、総合的に重要な能力として、ディベートに向けての作業シートの作成やディベートの試合を行うための基盤となっている。逆に、ディベートを行うことは批判的思考力とその態度の育成に効果的であると推測できる。さらに、表8はキャリア総合Ⅱにおける授業の初回と最終回に実施した学生33人の学修成果把握アンケート結果の一部である。表中の項目はアンケート10項目のうちディベートに関する2項目、回は授業の初回と授業の最終回、学生の回答のうちA（当てはまる）を3点、B（やや当てはまる）を2点、C（当てはまらない）を1点と表し、点数ごとの学生の回答人数、平均は各回の学生33人についての平均点である。

表8 キャリア総合Ⅱにおける学修成果把握アンケート結果の一部

(2023.4.12 初回実施 2023.7.27 最終回実施)

	項 目	回	3点	2点	1点	平均
1	ディベートの論題に向けた情報収集、自論を支える証拠集め、議論の展開を想定した準備ができる。	初 回	0人	2人	31人	1.1点
		最終回	13人	20人	0人	2.4点
2	ディベートの試合において、意見や反論したり、議論の流れを踏まえた適切なアドバイスができる。	初 回	0人	2人	31人	1.1点
		最終回	14人	19人	0人	2.4点

表8の項目1、項目2については、授業の初回と最終回におけるアンケート結果から顕著な変化がみられることから、ディベートを行うことにより表1から表3にある記号①、②、ア、A、B、E、Fなどの批判的思考力とその態度の育成にある程度効果があったと考えられる。

しかし、前節の結果から、ディベートを行うことで批判的思考力とその態度を育成するためには、適切な論題の設定が重要である。また、ディベート前後のアンケート等により効果を測定することで更に効果的な実施方法を工夫する必要がある。

5 履歴書作成指導と面接練習

批判的思考力とその態度が求められる「新聞記事を読んだ感想・意見」やディベートの授業を行った後、前期最後には履歴書作成指導、後期始めに面接練習を行った。

図3は本学履歴書様式の一部である自己紹介書である。

様式中の「自覚している性格」について、自己認識がきちんとできていること及び自己の短所を認めそれを克服するための努力を惜しまない姿勢を示すことや短所を補うための努力等を記述するように指導している。指導上、学生は長所短所を記述することはできるが短所を補うための努力等の記述に苦勞することが多いため、「几帳面な性格のため時間がかかることがあります、何事にも責任を持ち最後まで丁寧にやり遂げることができます」「責任感が強い反面、人に頼ることが苦手で一人で抱え込むことがあるため、周りの協力を得るよう少しずつ改善しています」などの作成例を示しながら行った。また、学生が作成した履歴書の下書きを他の教員の協力を得て確認し、個別面談にて具体的にアドバイスした。

次に面接練習として、面接の流れ等の確認や想定質問に対する回答作成などの事前準備を行った後、面接官6名による模擬面接を実施した。図4は、模擬面接における発問例である。

図3 自己紹介書の様式

自己紹介書	
短期大学 学科	
得意な科目	
クラブ活動 スポーツ・ 文化活動等	
自覚している 性格	
趣 味	
特 長 資格	
志望の動機	

下関短期大学

図4 模擬面接における発問例

- ① 所属と氏名をお答えください。
 - ② 本園（施設、会社）を希望した理由を教えてください。
 - ③ 学生時代に力を入れて取り組んだことは何ですか。
 - ④ あなたの長所と短所は何ですか。
 - ⑤ なぜ保育士（児童支援員）になろうと思いましたか。
 - ⑥ どんな保育士（児童支援員）になりたいと考えていますか。
 - ⑦-1 これまで困難にぶつかった時、あなたはどのようにして乗り越えてきましたか。
 - ⑦-2 新人保育者（児童支援員、社員）として必要なことは何だと思えますか。
 - ⑦-3 他人とコミュニケーションをとる上で大切なことは何だと思えますか。
 - ⑦-4 保育や教育に関するニュースであなたが関心をもったことは何ですか。
- ※⑦は発問例であり適宜発問する
- ⑧ 最後に、あなたの自己PRをしてください。

学生には、面接官に対して意欲や情熱、自己認識、物事を多面的に把握し表現する力、常識的な考え方や意見、論理的思考力、コミュニケーション力、問題解決力などを伝えることが求められる。しかし、学生の実態として、これらをすべて満たす者は稀であり9月時点では図4の②③⑤⑥などの基本的な発問に対する回答を準備できていない学生もおり、一部の学生に対してではあるが、④、⑦-4といった発問において長所、短所、改善策、共感的感想、批判的感想、自己の意見を踏まえた回答について指導助言した。

5・1 キャリア教育の意義

就職試験において必要となる履歴書や面接は、学生の専門知識だけでなくジェネリックスキルが試される場であり、1章で述べたようにその1つである批判的思考力とその態度は、履歴書作成や面接試験における基盤であるとともに評価対象でもある。

こうしたことから、ほとんどの学生が就職希望である本学保育学科においても、学生の実態に応じてジェネリックスキルの1つである批判的思考力とその態度を育成することは有用であり、それを基盤としてキャリア教育を実践することは有意義である。

6 まとめ

批判的思考（クリティカル・シンキング）には否定的なイメージがあるが、ジェネリックスキルの1つとして位置づけられている。「新聞記事を読んだ感想・意見」の取組では、社会に対する知識・理解の深化に対しては一定の成果が認められ、批判的思考力とその態度に基づいた効果を推測することはできたが、授業前後に対比した効果を測定できていない。ディベートの取組では、社会に対する知識・理解の深化、構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、思考力・判断力・表現力の向上に対して80%ほどの学生がディベートによる効果

を認識し、他者と協力した作業効率の向上の必要性を認識・体感していた。また、批判的思考力とその態度は、総合的に重要な能力としてディベートを行うための基盤となっており、ディベートを行うことにより批判的思考力とその態度の育成にある程度効果があったと考えられる。ただし、論題設定や効果測定結果を踏まえ更なる実施方法の工夫が必要である。また、就職試験では専門知識だけでなくジェネリックスキルが求められ、その1つである批判的思考力とその態度を育成することは有用であり、それを基盤としたキャリア教育を実践することは有意義である。

参考文献

- (1) 授業におけるディベートの実践報告及びデータ分析による効果等の考察
下関短期大学紀要第41号 pp21-42 2022
- (2) クリティカル・シンキングと教育 世界思想社 pp4-21 2006
- (3) 批判的思考力を育む 有斐閣 pp2-24 2011

資料1 「新聞記事を読んだ意見・感想」における「批判的感想」「自分ならどうする」

新聞記事1	捨てられる野菜材料に 野菜で作ったクレヨンを販売する
<p>(批判的感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 怖いと思ったのが、子どもは一度口に入れて大丈夫だと分かったら何でも野菜と思ひ込み、口に入れてしまうようになりかねないからです。野菜で作るのもいいですが、危険性を伝えることをおろそかにしてはいけません。 ・ 野菜の名前が書かれているのは面白いが、赤、青、黄などの色の名前が書いてあった方が、塗りながら、何色を使うか考えられると思った。 <p>(自分ならどうする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜だけでなく、木や花でも作ってみたい。野菜よりも種類が多く様々な色合いが楽しめそう。クレヨンを見て木や花の名前を覚えられない。 	
新聞記事2	胎児の障害や病気知ったら、NPOが冊子
<p>(批判的感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠しているお母さんが手に取りやすい所に置いた方がいいのではないかな。 ・ 「あなたがどうしたらよいかを考えること」「あなたにもほかの妊婦さんと同じように心のケアが必要」などお母さんが落ち込む前提で書くのではなく、どのように準備し、いかに不安を和らげるかを書いた方がいい。 <p>(自分ならどうする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出生前診断を受けたい。障害の有無にかかわらず生みたいという気持ちはそんなに簡単に変わらないと思います。もしあっても準備をしておきたい。 ・ 冊子を公共の場に置くことで、自分がその立場になっても、友達が悩んでいた時にアドバイスし、冊子を見ることを勧めることができるからです。 	
新聞記事3	役立ち元気になる ダウン症版の母子手帳を企画
<p>(批判的感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成長記録をつけることを止めてしまうと子どもの小さい時のことを忘れてしまう。年齢とともに書き、少しずつ自信をつけ、臆しないようになることも大事なので、書き続けることも大切だと思う。 ・ 母子手帳の内容を一緒に入れて1つの子育て手帳にしてもいいのではないだろうか。並行して見たときに発達が遅れているけど、ここまでできたという成長を感じると思う。 ・ ダウン症版の母子手帳を作ると差別だという人が少なからずいるのではなかろうか。手帳を変えることで、障害のある子どもを育てているという負担を感じる人もいるのでは。 <p>(自分ならどうする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親が沈んでいた子どもにも伝わってしまうので、落ち込むよりもどうしたら楽しい気持ちで子育てができるかということを考えたい。 ・ 記念日として書き込むだけでなく出来るまでの姿も書けるようにしておく。 ・ 自分が産んだ子だから、何があっても向き合いながら育てます。 ・ その子どもにあった小さな目標を書き込む欄をつくる。 ・ 同じような経験や思いをもつ保護者を集め、共有し、相談できる場所をつくる。 	

新聞記事 4	事故で障害の「今の私見て」 下関の全盲女性、20日から初の詩作展
(批判的感想)	
<ul style="list-style-type: none">• さまざまな感情をむき出しにするのは、周りの人がどう接していか分からなくなるため八つ当たりするのはあまり良くないと思う。	
新聞記事 5	親や職員 頑張っている姿見て 映画「夜間もやっている保育園」
(批判的感想)	
<ul style="list-style-type: none">• 24時間園をあけることで、職員の配置や室内の清掃がきちんとできるかが心配。職員の人数が足りていればよいが、急に足りなくなった時など子どもへのリスクが大きい。• 保護者も子どももそれなりの設備がないと預けても安心できない人もいるのではないだろうか。	
新聞記事 6	「きれいごとで動く社会」に ハンディのある人を積極的に雇用する中古タイヤ店
(批判的感想)	
<ul style="list-style-type: none">• お金を貸して失踪されてそのままにしておくことは、真面目にしている社員のこともあり、人をまとめる社長としてはどうでしょうか。	

資料2 ディベートの試合における立論、質疑・応答、反駁、まとめの概要

ステージI (2023.7.12実施): 論題1~論題4、ステージII (2023.7.26実施): 論題5~論題8

○はプラン等

肯定側立論の概要	否定側立論の概要	質疑(Q)・応答(A) 反駁・まとめ(斜体字の箇所)
論題1 地震の多い日本であるが、原子力発電は必要である。		
<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの多くを輸入に頼る日本では必要 ・核分裂では二酸化炭素を排出しない ・発電コストが安い ・電気料金高騰の中で料金低下につながる ・ウランは再利用できる ○政府もエネルギー基本計画にて原発を進めており、二酸化炭素排出量が削減できるため必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・原発事故の危険性があり、水素爆発など深刻な事故が起こりうる ・海の生態系や人体への影響あり ・汚染物質が安全になるのに時間がかかり人類への影響が大きい ・ドイツは原発廃止を決めている ・ウランはテロで強奪の可能性あり ○原発依存ではなくバランス型に移行し、情報公開などにより正しい目標を目指す 	<p>【否定側質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原発は維持費がかかる火力発電の方が安価 ・大事故再発の可能性あり稼働を抑えてバランスをとる <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【肯定側質疑】</p> <p>Q 石油による火力発電で排出された二酸化炭素はどうするの？</p> <p>A 原発の冷却水排出で7℃水温上昇し温暖化につながる</p> <p>Q 稀に起こる事故が無ければ安全ではないか？</p> <p>A 地震や津波など可能性が大きい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電は敷地必要 ・原油高あり ・代替エネルギーの可能性はあるが安定しない
論題2 コロナでリモートワークやテレワークが広がったが、今後も増やすべきである。		
<ul style="list-style-type: none"> ・交通費、光熱費、省スペースなどコスト削減 ・優秀な人材を採用できる ・通勤負担、残業時間の削減によりモチベーション向上 ・日産自動車やアフラックも推奨 ・災害時でも仕事ができる ・副業にもチャレンジ可能 ・デスクワーク従事者のうち64%がテレリモに満足 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ離婚が増えた原因 ・すべての企業ではできない保育園や工場では不可能 ・媒体紛失などセキュリティリスクあり。 ・2022年個人情報漏洩が202万人、年1億4千万件発生。 ・損害賠償費用もかかる ・環境構築に費用がかかる ・高齢者はネットに弱い 	<p>【否定側質疑】</p> <p>Q 交通費がかからないというが、ネット環境など初期費用がかかるのでは？</p> <p>A 会社のPCを使う</p> <p>Q 日産やアフラックはどのようにしているのか？</p> <p>A 工場等ではなくデスクワークのみ対象</p> <p>Q 飲食業やサービス業、保育でもできない、一部の人のためだけになっていないか？</p> <p>A テレリモは必要どころが導入すればよい</p>

		<p>【肯定側質疑】</p> <p>Q 夫や妻のストレスが増大するというが、自宅ではなくPCを持ち歩けばよいのでは？</p> <p>A 自宅以外は経費必要</p> <p>Q スタバや図書館もありお金はかからないのでは？</p> <p>A テレリモでは家族時間が増すのでは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティリスクに対しては総務省がガイドラインを出している ・長時間労働になりやすいというが、アフレックは7時から21時のうち8時間労働で、運動、スポーツもできる
<p>論題3 スーパーやコンビニにおいて、有料レジ袋は継続すべきである。</p>		
<p>環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックは海に流し魚も食べ、生態系を壊す ・ほとんど自然分解しない ・原油から作られるが、レジ袋に42万k1必要 <p>ゴミ減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300億枚消費され、廃棄されれば、二酸化炭素が排出される <p>政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2006年に法改正され、レジ袋有料化が決まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコバックの持ち込みが一般的となりレジ袋だけが環境問題の原因ではない ・すべての店で有料化されていない ・追加でレジ袋を購入する人もいる ・万引きが増えたというデータもある 	<p>【否定側質疑】</p> <p>Q レジ袋有料化だけで環境問題に効果があるのか？</p> <p>A 有料化の取組によりエコ意識が向上する</p> <p>Q 環境への効果があるのか？</p> <p>A なかなか進展しない</p> <hr/> <p>【肯定側質疑】</p> <p>Q 万引き増加はモラルの問題ではないのか？</p> <p>A 回答なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題改善に向けてできることから対策をする
<p>論題4 「ブラック校則」が問題になっているが、日本の高等学校には制服が必要である。</p>		
<p>1099人へのアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服必要、どちらかというところの方がいいが86.4% ・毎日服に悩まなくてよい69.6% ・経済的である50.4% ・個人差がない42.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・私立なら11万円、公立でも3万円から3万5千円 ・私服ならワンピ千円からある ・体温調節がしにくい ・私服は毎日洗えて清潔 ・自分らしさや個性が出せる 	<p>【否定側質疑】</p> <p>Q 制服はお金がかかるのでは？</p> <p>A 私服もお金がかかる</p>

		<p>【肯定側質疑】 Q 私服でいじめられないか？ A 1枚しかない家はない Q 3枚なら3種類しかないとい じめられないか？ A そもそも制服でもいじめは ある ・個性がないというが、 LGBTQ対応など制服も選べ るようになっている</p>
<p>論題5 子どもの発育・発達を促進するために、屋外遊具の種類や数を増やすべきである。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びにより基礎的体力や運動能力が向上、低下すると怪我をしやすくなる ・子供が決められたルールだけで動くとならぬ発達につながらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園などでも危険などの理由で遊具がなくなっている ・メンテナンスも必要 ・下関市民プールでも滑り台が撤去された 	<p>【否定側質疑】 Q 今の数量の遊具でも必要な能力は身につくと思うがいかがか？ A 有効な回答なし Q 遊具がない方が全体的に配慮できるのでは？ A 遊具は子どもの運動能力の向上に必要</p> <hr/> <p>【肯定側質疑】 Q 遊具には危険性を知らせる表示等があったのではないか？ A プールにも監視がついていた Q 子どもに危ないという意識が足りない、先生や大人がもっと教えるべきでは A 保育士の人数が足りない</p>
<p>論題6 保育園・幼稚園などにおけるマスク着用も保護者(子ども)の判断に任せるべきである。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・子供は先生の口元で学ぶが、マスクがあると伝わりにくい ・方針として個人の主体性、判断に任せるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクなしで発熱、コロナになったときに子どもが疑われ、いじめの要因ともなる ・園全体でのマスク着用率は46.9% 	<p>【否定側質疑】 Q 口元を見るのは2歳まで、3歳以降は口元を見ないのではないか？ A 回答なし Q マスクなしでクラスターが発生したらどうするのか？ A コロナは落ち着いており、個人の判断でよい ・子どもだからこそ保護者の判断に任せない</p>

		<p>【肯定側質疑】 Q いじめは以前からあり、理由にするのはおかしくないか？ A 有効な回答なし ・園では責任が取れず保護者の判断に任せるべき</p>
<p>論題7 保育園・幼稚園などでは、園児の使用済み紙おむつは保護者が持ち帰るべきである。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・すべて園で処分するとなると費用がかかり一般廃棄でよい ・子どもの体調把握のためにも保護者が持ち帰るべきである ・未満児は1日7回おむつ替えが必要で1日250個以上になる。おむつの管理は園にとって大きな負担となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者持ち帰りルールは謎ルールであり、要望を受け厚生労働省が園で処分するよう通知している。 ・保護者持ち帰りは不衛生 ・大阪母子センターによれば感染症対策上も危険とされている ・保護者のお迎え後の買い物などで匂いが気になる ・保育士も大変 ・処分のコストは気にすることはない 	<p>【否定側質疑】 ・保護者はおむつの世話以外にも仕事がある ・園での廃棄割合は、2022年49%、2023年71%と増加</p> <p>【肯定側質疑】 Q 持ち帰りの際に匂わない袋もあるが？ A 車中での匂い、帰りに寄るところもあり匂いが気になる Q 管理が大変で園の負担にならないか A 有効な回答なし Q コストはどうか？ A 1人250円で捨てられる</p>
<p>論題8 男女平等を実現するためにも、家庭での男女の育児分担は同じにすべきである。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等は社会全体で推奨されており、仕事においても男女共同参画社会を実現すべきである ・父親として育児に関わりたいということで男性の育児休暇ができた ・9割の会社が育休を保障している ○男性は仕事、女性は家庭という固定観念があり、男性が育児にかかわる時間は12分というデータもあり、男女平等の中で同じにすべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における男女平等は当然のことであるが、日本の現状としては男性が重要な仕事に就くことが多いためにストレスも多く、家庭に帰ってまで育児に手が回らず女性に負担がかかっている ○男女の家庭での分担を同じにするためには、社会での男女の負担を同じにしなければならない。したがって現状では、男女で話し合いの上分担を決めるべきである。 	<p>【否定側質疑】 Q 育児休暇でどのくらい給料が保障されるのか A 9割程度 Q 男性の方が職場で上の立場の人が多いと思うが？ A 男性は仕事の負担が多く社会全体の課題である。忙しいとしても育児に参加すべきである ・男女平等はしだいに進んでいくと思うが、現状では男性は会社等でのストレスも多く、男女の得意分野を生かして行くべきである</p>

		<p>【肯定側質疑】</p> <p>Q 女性は家庭中心が多いというが、共働き家庭も増加し、女性のストレスが増えているのではないか？</p> <p>A 女性管理職も増えてはいるが割合的には男性の方がかなり多い</p> <ul style="list-style-type: none">・家事、育児の男女割合は海外で2倍、日本で5倍と日本での格差が大きく、育児分担を同じにすべきである
--	--	--

資料3 ステージⅡ終了後に実施したアンケートにおける学生の主な感想（2023.7.26実施）

○ ディベートについての感想

- ・ 一つのことを深く突き詰めることがないので楽しかった
- ・ 普段やらないことができて楽しかった
- ・ 意見を言い、相手の意見を聞き、反論するなど普段しないようなことを沢山して頭を使った
- ・ 機会があればまたしてみたい
- ・ 意見をしっかり言うことができた
- ・ 自分達の意見が正しいと思っていたが、相手の意見を聞いて「確かに」と思うことが沢山あった
- ・ 他グループの試合を見るのも楽しかった
- ・ 他チームの意見や伝え方を参考にして、事前の準備をもっと頑張ればよかった
- ・ グループ活動で一人じゃ気づけないことを発見でき、とても盛り上がった
- ・ 発言する人としらない人で分かれてしまい、グループでのディベートが成り立たなかった
- ・ 討議はこんなにストレスだと感じた

○ ディベートを通して身についたことや学んだこと等

- ・ 新しい知識が増えて楽しかった
- ・ 物事を論理的に考える訓練になった
- ・ 調べる力や相手の意見を聞く力がついた
- ・ グループでチームとして意見をまとめ堂々と発表できた
- ・ 相手の意見を尊重しながら自分の意見と比べて発言することができた
- ・ 自分たちのグループの強みを材料にして相手の意見を覆すような反論ができた
- ・ グループでよく調べたので反論に対応できた
- ・ 判断力や探究心が身についた

○ ディベートで難しかったこと等

- ・ 自分の意見ではなく肯定側、否定側の与えられた立場でなくてはならないことが難しかった
- ・ 相手の意見を考えて反論するための情報収集や応答が難しかった
- ・ 根拠となる数字を見つけることや反論することが難しかった
- ・ 論題が難しかった
- ・ 否定側の方が難しいと感じた
- ・ 調べたことをそのまま話すと伝わらず、まとめながら分かりやすく話すことが難しかった
- ・ 相手の意見にあまり反論できなかった
- ・ 相手の意見への反論を続けていくと、論点がずれた考えを発言していた